

◆◆◆◆◆
吉山盛次郎 議員



◆◆◆◆◆
工程表を持つてくると工事がいつまでかかるという形がわかる。中身を確認して早目に対応策をとっていくよう指導したい。



第2山田バス停前

◆◆◆◆◆
村内の学校通学路及び集落に係る危機管理について

質 山田校の村道、スクールゾーンの歩道にまたがる法面の崩落があります。これは喫緊の事後処理が要する事態だと思います。どういった認識を持つておられるのか、伺いたいと思います。

答 建設課長 崎山 敦

民間住宅建設に伴う床掘りにより、擁壁が転倒した事案について、現在も協議中で、3回か4回ほど役場で調整はしています。来週、

◆◆◆◆◆
村内小中学校学習支援の在り方と実績について

質 学校内で学習支援は好ましい形で推移しているのか。学習障害等に対応できるような状態、体制を整えていますか。

答 学校教育課長 石川 司

現在、学習支援を目的とする学習支援員の配置は実施していません。以前配置していた学習支援員は、小学校に7カ年配置し効果が見られて、全国学力テストにおいても大きな改善が見られました。

学習支援員の配置のみならず、学校全体での取り組みの結果だと思つていきます。沖繩振興特別推進市町村交付金事業を活用して、特別支援教育支援員として各学校に配置してあります。年々増加し、今年度は村内各幼、小、中学校に21名配置してあります。気になる児童生徒へのきめ細かい支援が、学校現場ではなされている状況です。

質 学習支援を充実させてほしいと思う。足りていますか。

答 学校教育課長 石川 司

特別支援教育支援員は教員免許が不要の方を以前は配置していたが、現在村内では確保が難しいので県内全域、教員免許を持っている先生方が支援員となっている。気になる子が5校で百名近く上がつてます。学校現場で、子供の発達とかに合わせて配置をしているので、数的には充実はしていない。

質 学習支援員は将来教員になりたいにもかかわらず、教員試験に臨む勉強する時間がないという状況で、なり手はないんじゃないですか。

答 学校教育課長 石川 司

特別支援教育支援員には勤務時間が決められ、部活動であるとか、支援員個人の学校の先生方と

の折り合いの中でやっている。教員試験に向けて、本採用に向けての支援も我々はやる責任を持つています。

質 無料塾が多目的運動場で行われています。総合支援モデル事業で県費だと思いますが、その現状と課題を伺います。

答 学校教育課長 石川 司

子育て総合支援モデル事業として実施してあります。参加児童生徒は小学校で4名、中学校で13名。準要保護世帯の児童等を対象に学習支援を行っています。高校生への対象事業は行われておりません。

◆◆◆◆◆
山田校運動場の照明施設について

質 多方面から設備設置の要請があったと思いますが、山田地区スポーツ振興に係る村の思惑はどううか。

答 社会教育課長 長浜健一

先月の区長会で山田校区の区長からもその要請がございました。山田校区の皆様やスポーツ団体様には大変御迷惑をかけていますが、他の施設の利用で今お願いしている。長期計画にはなる。財政当局と、補助メニューがないかどうか、関係課と調整しながら今後進めてまいりたい。

◆◆◆◆◆
佐渡山 明 議員



◆◆◆◆◆
村の取り組んでいる自治体SDGsについて

質 国民の8割以上が知らないとなつたSDGsとは何か。

答 企画課長 山城雅人

2015年の国連サミットにおいて採択された国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓つたものです。

質 SDGsに取り組む目的は。

答 村長 長浜善巳

サンゴを中心とした自然環境にやさしい地域づくりの取り組みが、SDGsの理念と共通する点が多いことから、推進していくこととなりました。

質 国連では誰一人として取り残さない、経済・社会・環境の統合的向上が実現された未来を目指すと言っているSDGs。村では何を目標とするのか。

答 企画課長 山城雅人

経済の分野ではつくる責任と働きがいも経済成長も。社会の分野では、平和と公正をすべての人に。質の高い教育をみんなに。人や国の不平等をなくそう。環境の分野では、海の豊かさを守ろうと、陸の豊かさを守ろうとあります。

◆◆◆◆◆
日本UNEPとパートナーシップについて

質 環境問題を扱う日本UNEP

協会と協定を締結した主たる目的は。

答 企画課長 山城雅人

ダイビング観光客に事前研修を行い、サンゴへのリスクと安全なダイビングの仕方を理解してもらい、自然を傷つけずにサンゴを体験できる体制を整えていければと考えております。また、観光業全体の高付加価値化を図っていければと考えております。この事業は、村漁協、村ダイビング協会などの協力が前提でありますので、事業確立に向けた体制を早目に図っていければと考えています。

◆◆◆◆◆
村が取り組んでいる環境対策について

質 温室効果ガスの削減目標は達成されたとお考えでしょうか。

答 村民課長 屋良朝也

平成27、28年度は悪くなつておりますけれども、全体的に言えば、達成はしているかと思つております。

質 SDGsを実現する、推進していく上で一番難しいのは、環境面での取り組みだと思つております。例えば経済や社会面での取り組みはある程度、行政主導で仕組みをつくり上げ、その到達目

標に導いていきやすいと言われっております。一方で環境面での取り組みは、ルール整備を行つても、その活動を多くの村民や、ダイビング客を含めた観光客、村外の方々、全体で理解した上で取り組んでいかなければならないから難しいのであります。先ほどの温室効果ガス削減なども役場の管理する公的施設で取り組み目標を決めて実施していると答弁がございました。削減効果を求めるのであれば、環境問題は少しでも多くの方に参加していただくことが結果にあらわれ、かつそれ以外の環境問題に対しても波及効果が大きいのと言われております。最後に村長の思いをお聞かせください。

答 村長 長浜善巳

昨年サンゴの村宣言をしました。その中でサンゴの村づくり基本理念、1つ目が優しさと誇り。2つ目が人づくりと協働。また3つ目が交流と活力。4つ目が共生と持続。これを村民に広く周知させるとともに、細かい部分を掘り下げて取り組んでまいりたい。